

国語 第1学年 ことばって、おもしろいな

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

身近な物の実際の名前と、まとめて呼ぶ名前の違いに気付き、買い手と売り手のやり取りで使い分ける。名前を言うと相手が物を選ぶことと、まとめる名前仲間を表せることを確かめる。単元の終わりに残すのは、名前の仲間分けカードとやり取りの振り返り。まとめた名前と個々の名前の置き場所を変えて関係を示す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕A 話すこと・聞くこと(1)オ	オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

単元の目標

まとめて呼ぶ名前と個々の名前を比べ、言葉が事物の内容を表す働きに気付ける。注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて話をつなげられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①まとめて呼ぶ名前と個々の名前を比べ、言葉が事物の内容を表す働きに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア	①「話すこと・聞くこと」において、注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答している。(A(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全6時間（知・技④、話・聞②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身近な物の名前を出し、名前を聞いて何が思い浮かぶか確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○個々の名前を仲間ごとに並べ、まとめて呼ぶ名前を考える。	知①（語句や内容の整理）
	3	○まとめた名前と個々の名前を使った注文を比べ、相手への伝わり方を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○買う役と売る役で、相手の問いに応じて物の名前を言い直す。	思①（発言・学習記録）
	5	○役を替えてやり取りし、伝わりにくかった言い方を直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○まとめた名前と個々の名前の働きを振り返り、教室で使う例を探す。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて話をつなげられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」 【めあて】身近な物の実際の名前と、まとめて呼ぶ名前の違いに気づき、買い手と売り手のやり取りで使い分ける。 〈予想される児童の反応〉 ・くだものと言っても、どれがほしいか伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」 店の人と客の役を決め、まとめて呼ぶ名前だけの注文から始める。店の人は品物を選べないときに尋ね、客は個々の名前を使って注文を言い直す。役を交代し、相手の言葉を受けた応答で品物が伝わったか確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・くだものと言っても、どれがほしいか伝わらない。 ・りんごと言うと選べる。 ・同じ仲間を集めるとお店の名前を考えられる。	実物や教師作成の絵を並べ、上にまとめた名前、下に個々の名前を置く。言葉が出ない児童はカードを示してから声に出す。分類の基準が違う場合は理由を聞き、扱う名前の関係を確認める。 想定する難しさ：物の色だけで仲間分けする。大きい物の名前を「まとめた名前」と考える。お店遊びの装飾に時間を使い、言葉を使う場面が少なくなる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答している。（店役と客役の応答の観察・注文の言い直し）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・同じ仲間を集めるとお店の名前を考えられる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確認める。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、物の色だけで仲間分けする。大きい物の名前を「まとめた名前」と考える。お店遊びの装飾に時間を使い、言葉を使う場面が少なくなる。この場合は、実物や教師作成の絵を並べ、上にまとめた名前、下に個々の名前を置く。言葉が出ない児童はカードを示してから声に出す。分類の基準が違う場合は理由を聞き、扱う名前の関係を確かめる。おおむね満足できる状況は、注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

名前の仲間分けカードとやり取りの振り返り。まとめた名前と個々の名前の置き場所を変えて関係を示す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（1年）「1年下巻」85行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）

／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

